（科目区分）中等教育コース美術教育専攻
（授業科目名）彫刻基礎演習

原初的な木彫制作と彫刻の基礎考察

美術教育講座　佐々木昌夫

１．授業の概要

本授業は,中等教育コース美術教育専攻１回生を主な対象とした必修科目であり,彫刻分野における基礎的な学習を実技中心に行った。本年度の登録学生は,中等教育コース美術教育専攻１回生３名,小学校サブコース２回生１名,特別支援教育教員養成課程４回生３名の,合計７名であった。

・授業目的

彫刻の素材・技法・対象などについての,基本的な考え方や見方を理解する。特に原初的な技法としてのカーヴィングの実践をとおして,彫刻制作の基礎的な方法を身につける。

・到達目標

①彫刻における量感・動勢・形・空間について考察して,自身の彫刻についての考えを構築する。
②カーヴィングの実践をとおして,基礎的な技術を習得するとともに,新しい形を探求する。

・関連するディプロマ・ポリシー

教育と教職に関する確かな知識と,得意とする分野・教科等についての専門的知識を修得している。（知識・理解）

教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。（技能）

・授業方法,形態,内容の概要

第１回目の授業で,トラック諸島・ミクロネシアに伝わる木製民具（国立民族学博物館所蔵）の例を提示して,彫刻における触覚性の重要性と原初性について説明した。次に,長さ1mで各辺が約３㎝×３㎝の木材（角材）を素材として与えた。その角材から,主に大型カッターを使用して,具象抽象を問わず連続した多様な形をカーヴィングで制作させた。一般的なカーヴィングでは,最初にスケッチやマケットを制作し,素材に繰り返し下書きを描きながら,計画的に制作を進めるものである。だが今回は，スケッチやマケットは制作させず,可能なかぎり下書き無しで,いきなり角材の一方の端から削り始めさせた。それは本制作が,ヨーロッパで確立されたスタンダードな彫刻の方法によるのではなく,彫刻の原初的な地平に立つ試みだからである。その地点において,原初的な要素である触覚性を体現させながら,彫刻についての根源的な考察を,本授業では行った。また,合評会を２回行い,お互いの作品を鑑賞させて,意見交換と討議を重ねた。最後２回の授業で,彫刻のスタンダードな基礎訓練である模刻を実践させた後,授業全体をふりかえった。

２．アンケート結果

最後の授業で,以下のような選択方式と自由記述方式のアンケートを実施した。本年度は,受講生７名の全員から回答を得られた。（自由記述の回答は,簡略化して掲載した。）

【授業の難易度】
[簡単]0 人　[やや簡単]0 人
[ちょうどよい]7 人　[少し難しい]0 人
[難しい]0 人

【授業のスピード】
[遅い]0 人　[やや遅い]0 人
[ちょうどよい]7 人　[少し速い]0 人
[速い]0 人

【授業への関心】
[全く関心がない]0 人　[あまり関心がない]0 人
[何とも言えない]0 人　[関心がある]4 人
[大変関心がある]3 人

【授業への満足度】
[不満]0 人　[少し不満]0 人　[普通]0 人
[満足]5 人　[大変満足]2 人

【この授業で学んだと思うこと】
・道具の扱い方。（3 名）
・木の加工方法。（2 名）
・紙やすりや彫刻刀を使って楽しむ活動。
・立体の捉え方。
・自作品のプレゼンテーションの仕方。
・手を動かすことの重要性。
・物事をいろいろな視点から考える発想力。

・美術の技術的要素。

【改善してほしい点，評価できる点】

・制作環境を美化してほしい。
・自分のペースで制作できる空間になっている点。
・失敗してもフォローがある。
・良い雰囲気で楽しくできた。
・説明が細かく的確で,制作がしやすい。
・立体の木を彫ることが,経験できたこと。
・取り組む内容が分かりやすかった。

【学習したことを,地域文化の活性化（美術・図工の指導，展覧会・ワークショップの実施等）につなげられるか？】

・カッターの取り扱いや無計画に作品をつくる面白さが,美術・図工の指導につなげられる。
・小学校教師として,図工を教える際の適切な指導へつなげられる。
・ひたすら木を削るワークショップを実施したら,おもしろそう。
・無計画に制作するという方法が,美術・図工の指導につなげられる。
・美術に関するワークショップ等につなげられる。
・美術に苦手意識がある子どもでも,取り組みやすく,自然に触れながら制作できる。
・つくりながらいろいろな発想をするというところが，美術・図工の指導につなげられる。

３．地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業で扱う彫刻を含めた全ての美術作品は,制作者個人のみから発せられる表現ではなく,制作者を取り巻く環境が様々な面で影響している。とりわけ自身が属する地域社会は,その主体形成に大きく関わるとともに作品の重要な要素を規定している。その意味で彫刻もまた地域社会の産物であり,本授業でのカーヴィングの素材が石ではなく木であることも,愛媛県が有する豊かな森林資源と遠からず関係していると言えないだろうか。

アンケートで７名の受講生全員が,本授業での彫刻制作は,何らかのかたちで地域文化の活性化につなげられると答えている。地域社会から規定されながら,他方で個人の表現でもある彫刻の授業は,受講生の今後の実践しだいで,ベクトルを逆に向けて地域文化の活性化へと向かう可能性を備えているのであろう。

４．総括

本授業の制作では,ヤスリがけ作業やウッドオイルの塗装作業を実施するため,実習室の環境整備と換気に努めるよう心がけていた。にもかかわらずアンケート結果からは,まだ不十分であると推測されるため,来年度以降,さらなる環境整備の充実と換気の強化が必要である。一方,授業計画の段階では,一つの作品に長時間をかけて制作することへの不満を危惧していた。ところが,アンケート結果を見るかぎり,ほとんどの学生は,一つの作品にじっくり時間をかけて取り組むことに,意義を見出していたと思われる。

授業目的･到達目標については,概ね達成できたと考えられる。だが,到達目標①の自身の考えの構築については,本来,完成ということはあり得ないので,これからも常に検討して深化するべきであろう。本授業は基礎的な授業という性質があることから，関連するDPの知識・理解,技能は,その基礎の部分においてのみ,ほぼ達成することができたと考えられる。しかし,学校現場や地域社会への活用は,まだスタート地点に立ったばかりであると言えよう。

授業時間外学習については,実行したほとんどの学生が作品制作をしていたが，危険を伴うという彫刻の性質から,常に道具･工具の安全指導の強化が必須である。また制作実践のみではなく,本来,彫刻はその表現と創造につながる,それぞれの主体性が重要である。そのためには,学生が能動的な好奇心を発揮することができ,その先に主体的な表現と創造の意欲があらわれる場としての,自由時間の確保が最も基本であろう。